

令和元年10月

普及活動報告



互いに品質を確認



紫ずきん（晩生）秀品

～高品質な出荷に向けて互いの出荷物 を確認～ 紫ずきん目合わせ会を開催 (亀岡市：9/6・25、10/18日)

JAと特産協から出荷規格や出荷状況等について、普及センターからは病害虫防除やほ場の排水対策等、管理上のポイントを説明しました。その後、出荷箱を開けて、秀品と優品の選別の目安等を互いに確認しました。

豪雨や猛暑に加え、多くの台風に見舞われた昨年に比べて出荷量は増加しましたが、今年産の紫ずきん2号、3号においても夏期の極端な天候が原因とみられる着莢不良となったため、来年度以降も気象に応じた適切な栽培管理が課題として残りました。

場 所 JA京都亀岡中部支店
出席者数 23名

令和元年度 亀岡市 紫ずきん栽培面積232a、生産者数32名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告

～今年産豆類の生育状況を確認～

小豆・黒大豆の定点調査を実施

(全域：1日)



黒大豆の生育状況を調査

普及センターでは毎年、豆類の生育状況を把握するため、定点ほ場（小豆6箇所、黒大豆9箇所）を設置し、各月1日を基準日として小豆（9～11月）、黒大豆（8～11月）の生育調査を行い、データを蓄積しています。調査の結果、株の生育（主茎長や分枝数等）は、黒大豆は平年より良く小豆は平年並でした。また着莢数は、小豆は平年並でしたが黒大豆は平年並～やや少ないことが判明しました。

普及センターでは、今後、収量についても調査し、現地研修会等で今年産の作柄の振り返りや来年度に向けた栽培指導に調査データを活用していく予定です。

場 所 亀岡市馬路町、河原林町他
南丹市園部町黒田他
京丹波町富田、中山他

参加者数 8名

令和元年度 小豆調査ほ場6箇所、黒大豆調査ほ場9箇所

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告



積み上げた堆肥材料の様子（9月24日）



作製中の堆肥の様子（切り返し前）

～良質な堆肥づくりのポイントを体感～ 就農サポート講座受講生が切り返し作業 を実施（4日）

9月24日に積み上げた堆肥材料の分解・発酵を促進させるため、適切な水分量となるよう調整しつつ、隣に作成した木枠にスコップ等で移動させる、切り返し作業を行いました。

受講生からは、「臭いのすごさに驚いたが、今回の作業が堆肥を作る上で不可欠なことが理解でき、良い経験になった」との感想が聞かれました。

今後2回切り返し作業を行い、来年2月下旬には完成する予定です。

場 所 氷室の郷（南丹市八木町）
出席者数 6名

受講生は21～53歳（平均37歳）

南丹管内の実践農場研修生や就農予定者、就農間もない農業者及び障がい者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告

～京かんだしの品質向上を目指して～ 栽培農家を巡回

(南丹市・京丹波町：7日)



生育・病害虫の発生状況を確認

南丹市及び京丹波町の京かんだし栽培農家10戸を巡回し、生育状況の確認と市場価格や求められる品質について情報交換を行い、袋詰めの際の注意点などを指導しました。また、今後接近が予想される台風に備え、対策を徹底するよう呼び掛けました。

生産者から収穫後の管理方法について逆に提案があるなど、有意義な議論を行うことができました。今後も定期的に巡回を行い、生産者を支援します。

場 所 南丹市八木町・日吉町
京丹波町瑞穂地区
参加者数 15名

南丹管内 京かんだし栽培農家：16戸

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告

～地域の担い手の誕生に期待～

京都丹波就農サポート講座修了式を開催

(全域：8日)



所長から修了証書を手交

講義(農業経営)に引き続き修了式を開催し、修了生12名に修了証書を手交しました。各市町及びJA等の関係者からの激励の言葉の後、修了生が一人ずつ感想や今後の営農に向けた抱負を述べました。

修了生からは「講義内容が分かりやすかった」「営農意欲を駆り立てられて、とても身についた」等の感想がありました。今後も普及センターは、円滑な就農や経営の確立に向け支援していきます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 30名



記念撮影

今年度の講座は、座学(主要品目の栽培技術・土壌肥料・病害虫等)と現地経営研修(農業士等先進農家のほ場見学と説明)や鳥獣害対策等、実習(もみ殻堆肥づくり)等を実施(全10回)

受講生18名のうち、基準出席回数(7回)以上出席した12名が修了

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告

～育苗・定植からほ場管理について助言～

シュンギク栽培ほ場を巡回

(南丹市：11・18日)



苗の生育状況を確認

園部町内では8月中旬から育苗が、9月中旬からハウスでの定植が始まっています。育苗床や栽培ほ場を巡回して生育や病虫害発生状況等を確認し、管理のポイントや防除対策など、今後注意すべき点について呼び掛けました。また、台風19号接近前の巡回(11日)では、ハウスの被害防止対策についても注意を促しました。

生産者ごとに育苗床などほ場の条件や生育状態が異なるため、「他の生産者と情報交換して上手な栽培方法を学びたい」等の声が聞かれました。今後もJAとともにほ場を巡回し、助言や指導を行います。



今後の栽培管理について助言

場 所 南丹市園部町
シュンギク生産農家23戸

南丹市園部町 シュンギク生産者：約40名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告

～ビール大麦の安定生産に向けて～ 次年産栽培のポイントを説明

(亀岡市：18日)



熱心に説明を聞く生産者

令和元年産ビール大麦の出荷実績は、約244t(昨年比203%)となり、4年ぶりに契約量150tを満たしました。令和2年産においても安定生産に向け、①額縁明渠の早期設置 ②適期は種の実践 ③必要な施肥量の確実な施用 ④早播きの回避(霜害や凍害リスクの低減)などを呼び掛けました。また栽培期間中はこまめにほ場を見回り、明渠が崩れていないか確認するよう指導しました。

今後も、普及センターは、ほ場を巡回し、管理状況を確認しながら状況に応じた指導を行います。

場 所 JA京都亀岡川東支店

出席者数 39名

令和2年産栽培予定面積 約93ha(令和元年 95ha)

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告

～農作業体験で地域外住民の受入れを試行～ 農事組合が白大豆の収穫作業体験を実施

(南丹市：23日)



野菜ハウスで説明を聞く



みんなで白大豆の収穫作業

高齢化が進む美山町又林集落で、将来の移住者受入れを視野に入れた農作業体験が開催されました。野菜ハウスを見学した後、参加者と農事組合、地元企業が一緒に白大豆の収穫・脱穀作業を行い、交流を図りました。

参加者と交流することで、農事組合の移住等の受入れに向けた意識が高まることを期待しています。

普及センターは引き続き支援をしています。

場 所 南丹市美山町又林
出席者数 20名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年10月

普及活動報告

～ジャンボタニシの勉強会を開催～

(亀岡市：30日)



生態や防除対策等を説明



女性会会員の参加も目立った

ジャンボタニシ（正式名称スクミリンゴガイ）による稲の被害が近年増加していることから、生態や対策の勉強会を実施したいと要望がありました。

当日は、田植え後の浅水管理でジャンボタニシの食害を抑えられることや、「石灰窒素」や「スクミノン」等の薬剤を使った防除方法に加え、貝に毒は無いが寄生虫がいる可能性があるため、触れた後はよく手を洗うなど衛生管理についても説明しました。

参加者からは「ジャンボタニシのことがよく分かり参考になった」との声が聞かれました。

場 所 亀岡市吉川町

出席者数 25名

近年、亀岡市のほか、南丹市八木町や園部町でもジャンボタニシの分布が拡大しています

京都府南丹農業改良普及センター